

20140526

2014年5月26日　日本テレビ 定例記者会見

《要旨》

1. 視聴率動向と編成戦略

・4月期改編

先週（5月19日週）の視聴率では、3週連続となる三冠王を獲得した。しかし、視聴率は長期のトレンドで見れば、好不調があり、その度に一喜一憂せず、視聴者の皆様に選択していただける良質な番組作りに専念していく。

4月期は、ゴールデン、プライム帯において、ドラマを除いてレギュラー番組は無改編だったが、実はそれぞれの番組の中では新しいトライアルが行われており、それが良い結果を出している。

先々週は、特番や枠拡大を一切行わずレギュラー番組だけで戦い、三冠王を獲得。先週は1枠だけ2時間スペシャルで放送したが、その他はレギュラー番組で戦い、三冠王を獲得した。今週放送する「キリンカップチャレンジサッカー2014『日本×キプロス』」のような大きな特番も編成するが、今後も足元のレギュラー番組を大切にした編成方針を続ける。

・4月期ドラマ

水曜ドラマ「花咲舞が黙ってない」が好調の要因は、等身大の一〇Lが活躍するという、すっきりしたシンプルなストーリーが受け入れられたことだと思っている。データにも30代以降の女性の支持を多く集めていることが表れているが、主演の杏さんの認知度、好感度も大きな要因だと思っている。

土曜ドラマ「弱くても勝てます～青志先生とへっぽこ高校球児の野望」は、裏番組に左右されることもあるが、実際に試合を戦っていく中で「弱くても勝てる」という青志先生の戦略をより打ち出していくことで、視聴者の皆様にさらに楽しんでいただけたらと考えている。

2. 営業状況と放送外収入

・2013年度決算

2013 年度決算は増収増益。放送収入は、タイム、スポットとも前年を上回り、事業収入も増収となった。開局 60 年という記念すべき節目の年に、新しい事業を立ち上げ、数字の面でも目標を達成することができた 1 年であったと総括している。

そして、新年度の大きな課題は 2013 年度に当社の傘下に入った「Hulu」、「タツノコプロ」などの事業をしっかりと伸ばしていくことである。前年度を集約すると結果は良かったが、次年度に向けての飛躍につながるかどうか、前年度に蒔いた種をどう成長させるか、そこに全力を投入する。

・放送収入

新年度、4 月単月では、タイムセールスは前年を上回り、各番組でのカロリーアップが実現できた。スポットセールスは、消費税増税の影響もあり、エリア全体が前年同月比 97% 程度であり、当社も前年 100% には届かなかった。タイム、スポットのトータルでは、前年を少し上回るといった状況である。

5 月のスポットは、4 月より状況は好転しているようで、前年を上回ることを期待している。6 月も現時点ではまずまずの状況であると聞いているが、ワールドカップサッカーがどのような形で営業面に影響してくるのかを慎重に見ていく必要がある。

・放送外収入

海外ビジネスでは、海外でフォーマット販売している「¥マネーの虎」が、アメリカで前シーズンの好調な実績を受け、次のシーズンの継続が決定するなど、右肩上がりで少しずつ着実に成長している。

3. その他

・4K の試験放送

技術革新の進展に合わせてテレビを視聴する環境が改善されていくことは時の流れである。コンテンツを作る私どもとしても出来るだけ視聴者の皆様に素晴らしい映像を届けることを望んでおり、協力することが使命であると思っている。

しかし、ビジネスの観点から言えば、どのようなテンポで進めるかは経営上の様々な要因を考慮しながら適切に判断すべきであり、4K 受像機がどのようなスピードで、どれだけ一般に普及していくのかも見据えて、対応しなければならないと考えている。

6 月 2 日からの 4K 試験放送には、昨年 4K カメラで収録したナイターの映像を提供する。

(了)